

# 裁判員裁判のインパクト

## 導入から5年

### 経験者らの声を聞く



▲ 調査結果を報告した飯准教授

### 裁判員体験の共有が必要

飯准教授

はじめに、飯准教授が、全国で5万人以上が裁判員(補充裁判員を含む)を経験し、年間約1500人の被告に判決が言い渡されている、と実施状況を説明。「表面上は円滑に進んでいるが、実際はどうか。当事者の声を聞き、インパクト(影響)とポテンシャル(潜在的可能性)を探りたい」と趣旨を述べた。

2009年に裁判員制度が導入されて5年、その成果と課題を検証する法学部主催のシンポジウム「裁判員裁判のインパクト―実施5年後の現状と今後のあり方―」が11月3日、神田キャンパスで開かれた。裁判員裁判を研究する飯考行法学部准教授(法社会学)、裁判員裁判を担当する弁護士、裁判員経験者らが裁判員裁判を解説。裁判員を身近に感じさせる内容で、学生を含め100人の参加者が認識を新たにした。



▲ 多くの参加者が熱心に聴講した

◆裁判員 選挙権のある人の中から毎年くじで候補者を選出。事件ごとにくじで原則6人の裁判員が選ばれ、原則3人の裁判官と共に地方裁判所の刑事事件を担当する。有罪か無罪か、有罪であれば罪名や量刑を評議して決める。

「証人尋問や当り、裁判員候補に選ばれても手続きに出頭しない人が増加。参加意欲は低下傾向にあり、凄惨な証人写真を見なければならぬ。心理的な負担」にも注目が集まる。

飯准教授は「守秘義務の誤解もあり(事件のあらましや評議の雰囲気は話してよい)、社会に浸透する前に裁判員制度が廃れてしまう可能性もある」と指摘。裁判員に対する事前・事後のケアの充実、裁判員を務めやすくする環境の整備、裁判員経験者の体験を共有する取り組みを提言した。

裁判所の世論調査では「裁判員をやってみたら庭の模様を山本弁護士

「被告の境遇を知り、地域の青少年と関わる活動を始めた」「子どものトラブルでも背景を考慮するようになった」。裁判員裁判を傍聴し、裁判員経験者に聞き取り調査を行った飯准教授は、2人の例を紹介。「裁判員を経験し社会や地域に目を向けるようになった」と話す人が多い。単に市

パネリストから参考になる情報が披露された。

裁判員経験者や弁護士と自由に語る「裁判員ラウンジ」を12月から3カ月間に1回、神田5号館で開催する(無料)。第2土曜日14時開始で、次回は来年3月14日の予定。

### 公認会計士の役割と将来

公開講演会

会計学界における第一人者を講師に招いて年2回開催される会計学研究所(瓶子長幸所長)主催の公開講演会が、11月4日、生田キャンパスで開催された。

今回は、早稲田大学大学院商学研究科教授・企業会計審議会臨時委員・元日本公認会計士協会副会長の小宮山賢氏が185人の学生、院生、教員を前に「公認会計士の役割と将来」と題して講演した。

後半のパネル討論には30~70代の裁判員経験者4人が顔をそろえた。最年少の佐野和也さんは専大職員。12年に通商偽造・行使事件を担当した。「繁忙期で仕事との兼ね合いに苦心した」と言う

「合間に会社に電話できた」「比較的柔軟に辞退が認められている」など

2014年の公認会計士試験合格者が11月14日、金融庁の公認会計士・監査審査会から発表された。本学からは在学生

### 公認会計士 12人が合格

4人、卒業生8人の計12人が合格した(12月3日現在判明)。

割と将来」と題して講演した。写真。

小宮山教授は、30年以上にわたる公認会計士として監査に携わった経験をもとに、まず公認会計士の主たる役割である監査について、私たちのあまり知らないことができないような具体例も交えながら説明された。

さらに、税務・経営のコンサルティング、大学・大学院などの教育機関における貢献といった公認会計士の監査以外の業務にも言及し、その担

### 租税法講演会

「税を考える週間」

17日に神田キャンパスで「税の役割と税務行政の現状」をテーマとした講演会が開催された。

法学部専門科目「租税法Ⅱ」の授業内において、東京国税局調査第四部長の猪狩稔氏による講演が行われた。写真。税の役割「適正・公平な税務行政の推進」「納税者サービスの向上」について猪狩氏が丁寧に解説した。講演は税をテーマにしたテレビドラマの内容を交えた分かりやすいもので、実務に即した具体的な説明も多く、租税法

最終講義のご案内 12月12日現在

お持ちの方は、生田キャンパスのエクステンションセンター事務課(生田404・911・1268)までお寄せください。

### 公開講座情報

法学研究所 学生と市民のための公開講座「法律学と政治学の最前線」 第2回「日本警察の今昔―身の上相談から監視カメラまで―」

▽日時 12月20日(土) 14時~16時

▽日時 11月10日(土) 14時~16時

ホームページ モニター募集

年に数回のアンケートにご協力いただきモニターを募集いたします。

▽募集人数 本学学生・大学院生(50人)、卒業生(30人)

▽お問い合わせは ホームページ運営委員会事務局 (広報課 Email: info@acc.senshu-u.ac.jp)

### 専修人の新しい本

「橋由之日記」の研究

矢澤昇治編著

良寛の美弟で江戸後期の文人・橋由之が記した旅日記に注を付け、渡辺秀英氏が1961年に私家本として刊行した「橋由之日記」。新潟県出身の編著者が偶然入手した同書を活字化しようと、良寛を敬慕していた亡き実兄を偲びながら本書を執筆した。

旅日記は文政3(1820)年の越前(現福井県)から出雲(現新潟)の核心

地域マーケティングの核心

石川和男、石原慎士、佐々木茂編著

近年、地域産業の衰退によって人口が都市部に集中する傾向が見られる。人口減少時代に突入し、自治体の存続が危ぶまれている地域も存在している。

「橋由之日記」への帰郷旅行、同4年の東北旅行、同5年の秋田の歌会まで、3年間の旅の様子が書かれている。各所で詠まれた和歌が当時の情景を思い起こさせる。本書には全文が156ページにわたって掲載されている。

また、日記に書かれたことを解説する「日記の事項解説」、橋由之の人物像を探る「橋由之と良寛禅師」の論説に加え、巻末には橋由之の年譜や日記行程が付けられている。(専大出版局・本体3600円+税)

編著者(やざわ・しゅうじ) 法科大学院教授。

主な担当は「国際民事紛争解決」。

や地域ブランドに関する概念を踏まえながら、地域の資源を活用した活性化策や人々に支持され続ける地域づくりのあり方について述べている。

編著者は、佐々木茂高崎経済大学教授、石川和男(専修大学商学部教授)、石原慎士(石巻専修大学経営学部教授)、地域経営論)だが、多様な分野から多角的に議論していく必要性に鑑み、法学、地域政策、リスクマネジメント、自然科学の研究者も執筆に加わっている。石巻専大の三森敏正経営学部教授と鈴木英勝理工学部准教授が執筆分担者として参加している。(同友館・本体2400円+税)

は、地域マーケティング

は、地域マーケティング